



あすなろ通信

1月
2025年
1月号
January



人と人との温かい触れ合いの中で、明るく、平和な1年になりますように！

今月の行事



活動の様子

8日(水) 小中学校3学期始業式
あすなろ教室スタート

10日(金) スケート(第2班)

14日(火) カウンセリング

14日(火) 外国語活動

15日(水) 理科学習

20日(月) ヨガ

21日(火) 午後活動開始

31日(金) スポーツ活動

3学期
スタート



花壇の花も、春を待っています。



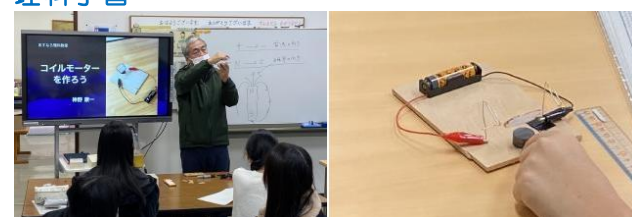
外国語学習



スケート(第2班)に行って来ました。



理科学習



3学期の主な行事予定

2月

3日(月)～19日(水)

保護者個別懇談会

3日(月) カウンセリング

4日(火) 外国語活動

12日(水) 理科学習

14日(金) 遠足(科学博物館)

19日(水) 美術活動

28日(金) 食育

20日(木)～3月12日(水)

小中担任連絡会

3月

3日(月) カウンセリング

6日(木)・7日(金) 県立高校入試

13日(木) 中3生お別れ会(活動最終日)

17日(月) 中学校卒業式(チャレンジデー)

18日(火) 県立高校合格発表

21日(金) 小学6年生活動最終日

24日(月) 小学校卒業式(チャレンジデー)

※あすなろ教室活動最終日

25日(火) 小中学校修了式(チャレンジデー)



※中3は、3月13日(木)が活動最終日です。
※小6は、3月21日(金)が活動最終日です。

【室長コラム】

6434人が亡くなり、今も3人が行方不明のままの阪神・淡路大震災、今年の1月17日で発生から30年となった。神戸市の東遊園地では、追悼行事「1・17のつどい」が開かれて多くの人が集まり、地震発生時刻の午前5時46分に合わせて黙とうを捧げた。その中に、「何もできなかった自分がたまらないほど悔しかった。時間が過ぎても決して忘れ去ることはできません。そんなあの日の光景が今も私を追いかけてきます。」と語っている人がいた。心が締めつけられる思いがした。また、30年目の節目にと、デザイン・クリエイティブセンター神戸等が主催となって集めた『阪神・淡路大震災から30年目の手記』の中に、「震災を経験してから私はいつも彼の分も生きていきたいと思っています。」「祖母が、子どもたちのもとに駆けつけて上に覆いかぶさってくれた。揺れた時間は僅か15秒だったが、5分ぐらいに感じたという。」「あの日お腹の中にいた子が、神戸の再生を願う希望の歌を歌っている。」「私はまだ母のお腹の中にいました。」等々のメッセージが寄せられている。西宮市出身のシンガーソングライターあいみょんも、お母さんのお腹の中で被災したのだそう。「お母さんがこたつの中に潜り込んで、お腹の中にいた私の命を守ってくれました。だから今歌うことができます。」と語っていた。多くの命が失われたが、守られた命もたくさんある。

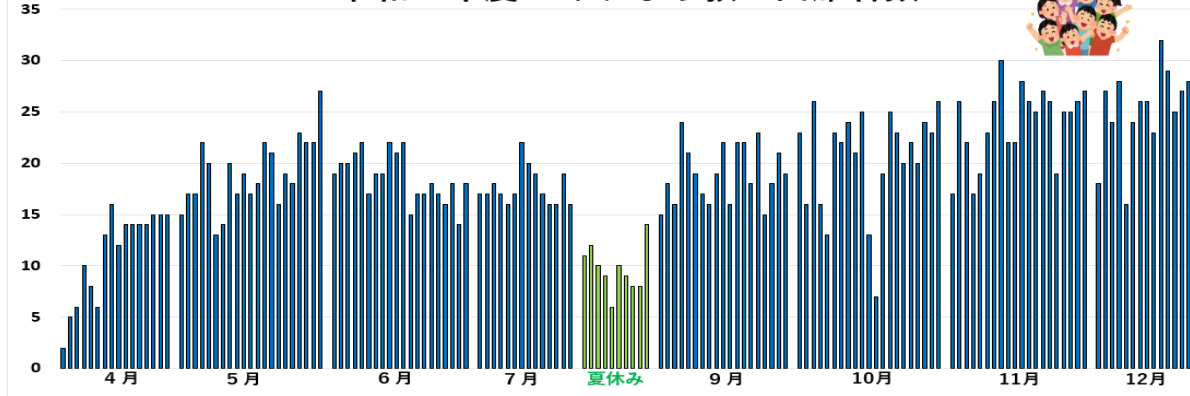
震災は、多くの命を奪い、たくさんの人々を悲しませ、苦しめた。でも、命が守られ、未来につながることでできた人たちは、悲しみや苦しみと闘いながら、自身の命の火を懸命に燃やし、自分の生活、みんなの生活、そして、街の生活を取り戻そうと必死に生きてきた。その生きざまから私たちは学び、命の尊さ、価値をもう一度考えなければならなかった。私たちも、南海トラフ地震で被災する可能性がある。命は大切にすれば結構強いが、大切にしなければ弱く、もろいものだというのをしっかり自覚するところから始めないといけない。

あすなろ教室の子どもたちにも、命の尊さを心に刻んでもらいたい。同時に、今生きていることの価値と幸せを感じてほしいと思う。私たちが日々の生活の中で当たり前を感じていること、例えば、安心できる場所で食事ができ、眠ることができ、家族や友人と対話することができる。そして、学ぶこともできる。これらはすべて、命が守られている安全な環境にあってこそ成り立つことである。私たちは、自分たちの手で、その環境をできるだけ維持する努力をしなければならない。

震災後、多くの人々が助け合い、支え合った。互いの命を大切に関わり合った。生き残り、未来につながった命の尊さを心に刻んだからこそ、また、失った命の価値を実感し、大きな悲しみを味わったからこそ、自分の命と他者の命を心から大切にすることができたと思う。それが絆となり、復興に向けてのエネルギーと行動になったのだろう。

「悲しみを優しさに変えた。苦労を強さに変えた。」そう語っていた人もいた。私たちは、まだ命の危険や大きな被害に直面してはいない。だからこそ、いざという時にできるだけ悲しみや苦労を味わわなくて済むように、命の大切さを忘れず、優しく、強く生きよう。取り返しのつかないことが起こる前に、しっかり準備をしておこう。

令和6年度 あすなろ教室出席者数



「あすなろ教室」
TEL 0897-37-7474
FAX 0897-32-6822
e-mail asunaro@city.niihama.lg.jp

